

## 2014年度日本数学会出版賞受賞者のことば

### 結城 浩 氏

2014年度日本数学会出版賞を贈呈いただきありがとうございます。このたびの受賞では、数学青春物語「数学ガール」シリーズや、『数学文章作法 基礎編』などの数学に関する著作活動をご評価いただいたとのこと、たいへん光栄に思っております。



私自身は数学の研究者というわけではありません。数学を楽しみ、著作を通してその楽しみを読者へ伝えたいと願っている一人の愛好家です。

『数学ガール』に登場する中学生・高校生たちは、数学を介して語り合い、教え合い、学び合う親密なコミュニティを築いています。多くの読者さんはもちろんのこと、著者である私も、そのようなコミュニティをうらやましく思っています。

現代で「数学」といえば受験科目として認識されることが多いと思いますが、受験を離れ、学校を離れてからも数学を語り、教え、学ぶことは純粋な楽しみだと思っています。音楽や読書や歴史を楽しむのと同じように「数学を楽しむ」ことが、もっともっと一般的になってほしいと願っています。

今後とも、ご指導のほどよろしく願いいたします。

「数学ガール」シリーズ著者 結城浩

[www.hyuki.com](http://www.hyuki.com)

### 雑誌「現代数学」(現代数学社)

この度は日本数学会出版賞をいただき、皆様には感謝の念でいっぱいです。『現代数学』は1968年に「知識の大衆化」を志して創刊され、それ以来、2度3度と誌名変更を行いながら継続してまいりましたが、数学専門書、少部数出版と厳しい経営環境の中、よく続けてきたなと皆さんお思いになられているのではないのでしょうか。本当にその通りです。改めて当時の雑誌を眺めてみますと、優秀な執筆陣の先生方による現代数学の鮮やかな説明や、厳密性の中に「オレにも数学という学問がわかりかけてきたぞ」と思えるように工夫された記述が随所にあり、他にないものを創ろうという意思表示が見て取れ、実は編集者自身が楽しくて止められなかったというのが正直なところかもしれません。

本誌も46年目を迎えましたが、数学は研究し尽くされた学問とさえ言われるなか、現代化された数学に強い関心を示す高校生を見て、その前進性に数学の未来を感じ頭が下がることがあります。そこで現代が求めている数学とはどんなものか、いろいろ思い悩んだ末、原点の『現代数学』に誌名を戻し、ネットで見られる情報だけでは得られにくい本当の数学の姿を読者にお伝えすることができればと自惚れております。

「知識の大衆化」と申しましたが、一般的には数学専門書はその難解な点が隘路となり、ますます無縁のものという人が大多数です。しかし、学校教育においては、それが生きるも死ぬもどれだけ書物と親しむかに因るといっても過言ではなく、特に専門書にいたっては、本人はもとより社会に果たす役割は、決して学校教育に劣るものではありません。数学の企画が尽きることがないように、この賞を励みに楽しみながら日本の数学界に貢献できるようであれば本望と、今後も精進し続けてまいりますので宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。

代表取締役 富田淳

## 金 重明 著「13歳の娘に語るガロアの数学」(岩波書店)

歴史小説家の書いた数学の本ということではなかなかまともに相手にしてもらえず、原稿を持ち込んだ出版社から断られるなどトラブル続きで、最後は岩波書店の編集者に拾っていただき何とか本にすることができました。それだけに受賞の報せを受けたときの感激はひとしおでした。あらためてお礼申し上げます。

数学の定理が発見されるまでには、実にさまざまなドラマがあります。こんなおもしろい題材を前にして手をこまねているのは物語作家の名折れだと思い、数学に関してはまったくの素人ですが、物語をでっち上げるのは得意なんだから何とかなるだろう、と考えて突き進んできました。

人類の黎明からあった方程式とのつきあい、その謎に挑んだ数多の人々、その積み重ねの上にガロアが打ち込んだ一本の黄金の釘、この物語が「13歳の娘に語るガロアの数学」となりました。4で割ると1余る素数は平方数の和として表現できる、というあまりぱっとしない定理に、歴史に名を残す錚々たる数学者が刀折れ、



矢尽きるまで挑戦し、ついにガウス整数という新地平が開かれていくという物語は「……ガウスの黄金定理」として結実しました。アルキメデスを悩ませた、無限小の量×無限大の量＝有限の量、という関係をオイラーが大胆に肯定し魔術のような数学を作り上げますが、厳密でないという批判を受けてしまいます。ところが20世紀に入り、超準解析の誕生により劇的な復活を遂げます。この物語は「……アルキメデスの無限小」と題しました。

数学の定理を主人公とするこれらの作品を小説の1ジャンルとして認めてくれる人はまだいないようですが、きちんとした数学的内容を表現しながら物語を展開するというこの手法は、数学のためにも、小説のためにも豊かな分野を開拓したものではないか、と自負しています。さらに磨きをかけた物語の執筆に向け努力しているところですが、いかんせん数学の実力が足らず、泥縄式に勉強している状況なので、日暮途遠といった心境です。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

金重明